

## オットコマエで爽やか やなあくと言う第一印象

ボクが林英伸さんに初めてお会いしたのは数年前の友人の頭井秀市さんの結婚式でした。でも林さんはその前からボクの事を既にご存じだった様なのです、というのも頭井さんのスーツを眺めさせて頂いた事がその前にあって、そのスーツを見た林さんがそのスーツをすごくカッコイイと思って頂いた様で頭井さんが「又今度紹介するよ！」と言ってくれていたらしいのです。そしてイルサルトのホームページを林さんが見た所、同じ司法書士の先輩である大迫康二さんがホームページに載っていて、その2つが決め手に

なつてイルサルトにお越し頂いたのが数年前の事でした。

林さんに初めてお会いした第一印象は「えらいオットコマエで年齢の割にすごく落ち着いて話す方だなー」でした。そして話してみると自分が欲しいスーツの形やディテールを明確に持っていていらつしました。

なかなか自分に合ったスーツのイメージを持つている方はいらつしゃらないんです、持っているとしても自分の思いこみだったりする場合も多い。でも林さんは自分を徹底的に客観視し、「自分をどう魅せるのか？」を明確に持っているので装うべき服を迷わずに選ぶ事が出来る、そんな能力を備えている方でした。



上) 撮影のこの日、スーツが出来上がりお渡しをさせて頂きました！  
右下) 真剣に生地を触る林さん、生地の手触りの良さにも大満足して頂きました。

## 父に無意識のうちに憧れを もち、司法書士の道を志す

ここで少し林さんの紹介をさせて頂きますね。林さんは神戸市中央区で司法書士事務所を自ら経営していらつしゃいます。専門分野は会社・法人関係、不動産関係、財産管理関係などでももとはお父様が開業されていたのですが、今は同じ場所に事務所を置いているものの独立採算でそれぞれがそれぞれの仕事をする！そんなスタイルを採られています。林さんに何故今の仕事をしているのですか？とお聞きすると、何と「何故でしょうか？」という答えが返ってきました(笑)。

でももう少しお聞きすると、**具体的**

に「司法書士になりたい！」という願望をもっていただけではありませんが、父も司法書士をしており、その姿を幼少から見ていましたので、無意識のうちに憧れをもち、司法書士の道を志すようになったんだと思います。そんなお話をさせて頂きました。

この気持ちはすごく良く分かります、ボク自身もそうですが親が洋服屋をしていたので洋服が身近にあり、気がついたら洋服屋になつていたんです。ボクの周りの特に跡継ぎ経営者はそんな方が多いですね。小さい頃から自然に刷り込まれていった！そんな感じなんだと思います。

## 「お客様のために」という表現には個人的に 少々違和感を覚えるんです

司法書士さんのお仕事と言うと一般的にはあまり馴染みがなく不動産を買うとき位なのではないでしょうか？そこで林さんにお仕事の事を少しお聞きしてみました。

司法書士がさせて頂いた仕事は、お客様にとって人生のなかで重要となるものが多くあります。不動産の購入は、通常、一生に一度の大きな買い物です。会社や法人の設立は、お客様のやりたいことを法人組織として踏み出す第一歩です。また、近年、コンプライアンスの遵守を重要視される企業が多く、株主総会の準備から関与させ



左) 湊川神社のすぐ近く、緑の非常に多く気持ち良い場所に事務所は有ります。  
中) お父様が創業当時の看板もそのまま、歴史を感じますね！